

第八回 是川縄文の里 俳句大会 一般の部 入賞作品一覧

第一位	春宵や縄文の朱の櫛の艶	青森市	加藤 健一朗
第二位	縄文の畜住む里や柿熟るる	八戸市	石垣 浩造
第三位	是川の遺跡を包む冬銀河	宮崎県	莊子 隆
第四位	縄文の土器の焦げ跡秋深し	八戸市	三浦 敬
第五位	土偶みな口丸く開け青嵐	三沢市	阿久津 凍河
第六位	ちぐはぐな土偶の乳房月おぼろ	東京都	小林 和子
	☆ 秋冷えや縄文土器は蓋持たず	八戸市	小笠原 聖子
	☆ 秋夕焼遺跡の里に農を継ぐ	八戸市	村田 充子
第九位	縄文のこころ豊かや漆掻	福岡県	今林 義和
	竹ペラの先に土器片蟬時雨	埼玉県	中野 弘樹
	色褪せぬ縄文漆器栗若葉	大分県	小野 千代美
	☆ 遺跡より太古の息吹良夜かな	六戸町	中澤 草子
	☆ 虫時雨縄文館を囲むかに	八戸市	境 陽子
第十四位	縄文の受け継ぎし血や耕せり	八戸市	大久保 和彦
	綿虫の舞ひし縄文土器の里	八戸市	黒田 長子
	堅穴の炉端にとどく虫しぐれ	八戸市	佐々木 敦子
	蟬しぐれ土偶が半眼開く時	岐阜県	田中 恭司
	堅穴の土屋根に揺れ花芒	八戸市	小笠原 聖子
	縄文の獵夫翡翠の腰飾り	福岡県	佐藤 節美
	☆ 祠にて物言ふ人や秋の風	八戸市	川守田 祐子
	☆ 国宝へ絞る光線冬館	八戸市	奥田 卓司
第二十二位	秋風や土偶の唄ふ子守唄	六戸町	中澤 草子
	秋うらら山羊が遺跡の草を食む	八戸市	村田 充子
	秋天へ祈る土偶の小さき指	滋賀県	近江 董花
第二十五位	縄文の弓のしなりの涼気かな	鶴田町	竹浪 誠也
	縄文の里に飛び交ふ燕の子	兵庫県	今北 渚
	縄文の浪漫を今に秋の声	兵庫県	野崎 精子
	蚯蚓鳴く赤色土器の展示室	大分県	吉田 紫紅
	秋深し埋め戻したる縄文址	階上町	中里 喜巳
	類杖の土偶見し後の秋思とも	八戸市	鈴木 莉花
	新月の闇を見据ゑる土偶の目	八戸市	佐藤 霜魚
	春耕や世界遺産の地に生きて	八戸市	中村 静江
	縄文の貌の集まる春祭り	八戸市	豊川 秀明
	貝塚や太古の風を夏の蝶	八戸市	大久保 和彦
第三十四位	勾玉の琅玕光る風光る	大分県	小野 智輔
	みな違う土偶のかたち初笑	弘前市	井上 裕太
	秋螢土偶の祈り乗せて飛ぶ	八戸市	長根 睦夫
	食欲の秋や縄文カレーの香	階上町	岩村 多加雄
	縄文の里に目覚むや秋澄めり	兵庫県	今北 葵
	縄文の鏝の先の冬支度	千葉県	須賀 毅

第八回 是川縄文の里 俳句大会 一般の部 入賞作品一覧

第四十四位

縄文の深き祈りや星月夜	愛知県	幅茂
眼鏡替へ覗く土偶や秋闌くる	八戸市	奥田 卓司
火焰土器脳裡に浮かぶ曼珠沙華	新潟県	大淵 航
豊作や縄文土偶腰が張り	滋賀県	野口 成人
展示せる土偶ささやく朧かな	青森市	加藤 健一郎
縄文館入るやベンガラ漆炎ゆ	鶴田町	竹浪 誠也
土器が見し幾千年の霧氷林	神奈川県	井上 靖
色あせぬ夏の思い出土器作り	大阪府	松本 ひろみ
霜柱踏みて見下す縄文郷	階上町	岩村 多加雄
朧月は川賛歌の響く里	兵庫県	今北 葵
万緑や命の讃歌縄文の里	兵庫県	野崎 精子
溽暑なり古代の土を掃き落とす	八戸市	平野 真記子
ゆるキヤラの如き土偶や花菜風	大分県	小野 千代美
縄文の食俵びたり栗拾ふ	千葉県	中原 政人
秋澄むや縄文びとの櫛飾り	十和田市	宮内 香宝
縄文の生業いまに稲を刈る	八戸市	鈴木 莉花
新井田川覗く川面は鮭の群れ	階上町	山口 雅志
河蜻蛉時の流れのはるかなり	八戸市	佐藤 亜希子
幾年の世代交代木の実落つ	八戸市	境 陽子
縄文の香り充して栗爆ぜる	八戸市	佐藤 霜魚
縄文の野辺で影踏み風青し	八戸市	田村 拡己
どの家も菊たけなはの日和かな	八戸市	中村 静江
縄文より祈り続くよ秋祭り	八戸市	山地 實
後世ニ傳ヘントスの碑に春日	滋賀県	近江 董花
継ぎ接ぎの大小の土器秋深し	八戸市	畑中 三七子
縄文の女神の額秋の空	八戸市	豊川 秀明
竪穴の住まい囲炉裏の炉火恋し	八戸市	赤坂 昇吾
土器けに人の温もり暮の秋	八戸市	工藤 祐子

☆ 天位（色紙を贈呈）

一般の部 応募数 191句